

令和 6 年度第 2 回愛媛県がん相談員研修会

2024 年度「情報から始まるがん相談支援」研修～地域展開版～愛媛県開催 活動実施報告書

記載者：和田美恵子

I. 企画概要

企画名

令和 6 年度第 2 回愛媛県がん相談員研修会

「情報から始まるがん相談支援」研修～地域展開版～愛媛県開催

主催

愛媛県がん診療連携協議会 がん相談支援専門部会 がん相談員研修ワーキング

開催日時

2024 年 11 月 9 日（土）13：00～17：00

開催方法

ZOOMを利用したオンライン開催

目的・目標

（目的）

がん専門相談員の役割の中核（コア）である「情報支援」の重要性を理解するとともに、相談員個々の「信頼できる医療情報を見極める力」「基本的な医療情報を活用する力」を高めることを主目的とする。また、がん相談支援センターにおいて取り組みたい情報の整備についても学ぶ機会とする。

（目標）

1. がん専門相談員としてヘルスリテラシーを高める重要性を認める
2. 信頼できる医療情報および情報源を見極めるための視点を述べる
3. ワークを通して、がん情報サービスや患者向けガイドラインの医療情報を理解する
4. 相談者に医療情報を提供する際の留意点を挙げる
5. 組織内において情報を収集、整備することの重要性を認める
6. グループワークは積極的に参加し、メンバーの意見も尊重する

運営スタッフ

講師・チーフファシリテーター

日本赤十字社和歌山医療センター 西山 恵理先生

運営担当

研修企画リーダー：四国がんセンター 福島美幸

研修司会・進行：四国がんセンター 大西明子

本研修事務局：四国がんセンター患者・家族総合支援室

オンライン研修本部（ホスト）愛媛大学医学部附属病院：塩見 美幸

四国がんセンター：篠原 瞳

ファシリテーター

愛媛県	武田 千津（愛媛県立中央病院）	濱田 由香（愛媛県立中央病院）
	松岡 誠子（済生会今治病院）	和田美恵子（住友別子病院）
	関木 裕美（四国がんセンター）	川中 真紀（市立宇和島病院）

徳島県	秋月 佐代 (徳島大学病院)	有馬 信夫 (徳島県立三好病院)
高知県	前田 英武 (高知大学医学部附属病院)	
香川県	小田 優子 (香川大学医学部附属病院)	佐藤 愛子 (三豊総合病院)

事務局 武智 祥江 持主 かおり (四国がんセンター)

受講対象者 (受講定員 30 名、受講者 23 名、欠席 1 名)

- ・愛媛県内を中心に全国の拠点病院・がん診療連携推進病院のがん相談支援センター相談員
- ・他県からの参加も可
- ・がん相談に従事する相談員 (医師、看護師、MSW、心理士等)

受講条件

事前課題)

受講者は、事前に E ラーニングで講義を聴講し、2 種類のワークシート (情報の見極め、基本的医療情報の活用) に取り組んだ上で当日参加する。具体的な内容は受講決定後に受講者に通知する。

プログラム内容

時間		ルーム	プログラム(予定)
9:30~	入室	控室	(当日打ち合わせ)
10:00~	90	控室	講師・研修司会・企画代表・企画サブ 当日打ち合わせ
11:30~	60	昼食休憩	
12:30~	30	メイン	受講生受付
13:00~	10	メイン	開会挨拶 (副部会長)
13:10~	5	メイン	オリエンテーション・講師紹介 (司会) 研修目的・目標説明
13:15~	10	メイン	講義 1・講義 2 復習 (講師)
13:25~	75	グループ	グループワーク(50 分) (ファシリ) 自己紹介(10 分)演習①(40 分) <全体共有(25 分)>
14:40~	10	メイン	休憩
14:50~	10	メイン	講義 3 復習(講師)
15:00~	65	グループ	グループワーク(40 分)・演習② (ファシリ) <全体共有(25 分)>
16:05~	5	メイン	講義④復習(講師)
16:10~	40	グループ	グループワーク(30 分)・演習③ 本日のふりかえり (ファシリ) <全体共有(8 分)>
16:50~	10	メイン	まとめ、質疑応答 (司会) 閉会挨拶・事務連絡、研修修了
17:00~	60	控室	研修のふりかえり

Ⅲ群登録

国立がん研究センター実施の「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請を行い、承認された。

II. ワーキングの打ち合わせ・振り返り会

1. 打ち合わせ会（10/30 15:00～17:00、研修当日 10:00～11:00）

- ・講義内容、研修進行等の予定に変更なし。
- ・グループワークの進行の確認。グループワーク①は発表なし。
- ・役割決めをしてグループワーク開始。運営側からも残り時間を管理して全体にアナウンスする。
- ・グループワーク後、グループ発表して全体共有する。
- ・参加申込キャンセルがあり、グループ分けが変更された。
- ・ファシリテータマニュアルに沿ってポイントについて確認。

《演習①》

- ・事前課題チェック項目において評価（○・△・×）の選択理由をしっかりと共有する
- ・総合評価では患者や家族がサイト選択につながった『魅了されそうな言葉』について引き付けられた理由について考える

《演習②》

- ・病理ステージについて、ステージがどのような状況であるかを調べているのかを確認する
- ・提示されていない相談者の背景やニーズについてグループ内で共有する
- ・ガイドラインに示されている薬剤名や数値についてどのように伝えるのかを考える
- ・情報の伝え方、情報量、伝えるタイミングなどについてグループ内で考える

《演習③》

- ・参加者の所属機関における情報整理の状況、ガイドラインの入手方法、多方面から提供されるパンフレットやチラシの取り扱いについて共有する

2. 振り返り会（17:05～17:30）

1) 全体の印象について

- ・スケジュール通りに終了できた。タイトなタイムスケジュールの内容だったが、講演、グループワークを予定通り進めることができたのがよかった。
- ・トライアルでの情報支援研修を入れると今回で4回目の開催になった。繰り返し行った研修経験がスケジュール通り進められたと考える。

2) グループワークについて（ファシリテーターから）

- ①発表順を決めていたことで、発表担当の演習終了後のグループワークでは消極的になってしまった。
- ②福祉職は医療情報を伝えることへの禁忌感をもってしたが、医療情報を伝えることが患者支援につながることで、相談員が安心して伝えるための確たる情報源があることを学ぶことができる機会になった。
 - ・情報支援研修はがん疾患だけではなく、広くいろんな症例につながる研修になることが考えられ、汎用性のより高いものであることを再認識した。がん拠点以外の医療機関にも門戸を広げて受講してもらいたい。
- ③グループ内の雰囲気があがるのに少し時間がかかり、ワークの時間配分が難しかった。
 - ・グループからでた意見を共有できるようにフィードバックすることで研修目的や学習目標の理解促進につながることができた。
 - ・エビデンスに基づく正しい情報をどう相談員がしっかり把握して、それを相談者に向けてどうアプローチしていくかについてしっかり振り返ることができて、有意義な時間になった。
- ④情報支援だけではなく、情報支援のために必要なこと、何をやる必要があるのかに気付き、受講生一人ひと

りが『今自分にできること、まずしないといけないこと』について考える機会になった。

- ⑤福祉職は「医療情報を提供することに悩みはあったけれど、ガイドラインを使って正しい情報を伝える」、看護職は「長年の経験と知識でできることだけではなく、正しい知識をブラッシュアップして、患者の立場に立って相談支援していきたい」という思いを最後に話し合うことができ、いい機会になった。
 - ⑥検索サイトを画面共有することでグループ内みんなが同じサイト見て話ができることがすごく良かった。
 - ・情報整備の状況も、ガイドラインやマニュアル（がんだけに関わらず）の整備が進んできたが、活用方法が今後の課題だという意見がグループ内から出ていた。できそうなことは明日からと言わず今からやってみようと思いますといった意見も出てきてよかった。
 - ・情報支援はなんたるかとか、情報整備はなんたるかを、1回立ち止まって振り返るとても大事な研修会だと思う。やはり情報支援は最終的に相談支援の基本的な姿勢に最後みんなが行きつくところが、この研修のすごいところ。必ずそこに到着するからこそやはり大事だなと思った。・情報整備はどの機関も苦労している。過去にこの研修を受けて、ガイドラインを買い揃えるようになった病院もあるが、いろんながんに関する情報を選定、更新し、媒体補充する作業は、現場にしわ寄せが出ており、情報整備は、本当にサステナブルにしないとなかなか大変だと研修に参加している皆さんの意見を聞きながら思った。この研修継続が望ましい。
- 3) 司会進行・全体を通して
 - ・参加者には初めてお会いする方が多く、所属機関の機能もわからない方もいる中で、グループメンバーに合わせて学習目標に到達できるようにファシリテートすることができたと思う。
 - ・ファシリテート力（グループワークでの意見の引き出し方、時間通りにワークを進めてまとめられたことなど）が向上しており、受講者から出てきた意見をきいてもレベルアップしてきていることを感じた。
 - 4) 会場設営等、その他
 - ・受講環境等事前に案内をしていたが、受講生の端末でハウリングが発生してしまうことがあった。自宅からの受講だったため、音響設備に反応したものと推測される。オンライン研修に不慣れな受講生もいることを勘案して案内に留意したい。

Ⅲ. 研修実施結果

1. 受講者背景

受講者計 23名 内訳

施設別：がん診療連携拠点病院 18名、地域がん診療病院 2名、がん診療連携推進病院 1名、その他 2名

県別：愛媛県 10名、愛媛県外 13名

職種別：看護師 6名、MSW 16名、心理士 1名

2. アンケート集計結果より抜粋

回答数：23件（参加者全員回答）

1) 情報支援に関する研修の受講回数

23名中 15名が初回、5名が2回目、3名が3回以上の状況だった。

受講者の約6割ががん相談員経験5年未満であることや地域がん支援病院の指定を受けて受講されたことなどが初回受講につながった背景にあると考えられる。

2) 研修目的の理解度

『ヘルスリテラシーを高めることの重要性』『信頼できる医療情報および情報源を見極めるための視点』

『がん情報サービスや患者向けガイドラインの医療情報』『相談者に医療情報を提供する際の留意点』『組織内において、情報を収集および整備することの重要性』の各項目について参加者の9割の方に十分理解できたと回答があった。その中でも医療情報を提要する際の留意点では「まあまあ理解できた」と回答された方が目立ち、相談者の背景や心理状態を鑑みてタイミングや情報量、伝え方などに難しさを感じたように推測できる。

3) 総合的な満足度

大変満足 20 名、まあまあ満足 3 名の回答であり、ほぼ全員から満足したと回答があった。

4) 受講者からの意見：アンケート集計結果参照

IV. 今後の展望

本研修では「がん情報サービスやガイドラインを使って相談対応してみよう」と参加者の多くが思えた研修となった。情報支援に必要な情報整理、情報収集だけではなく、情報支援をするために相談員に必要なスキルや相談支援のプロセスについて振り返る機会になった。

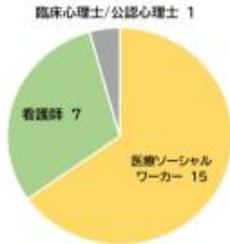
今後は研修のゴール、ハードルを上げず、また研修内容をコンパクトにして、モジュールごとの分割開催なども選択肢に繰り返し開催してみることも検討したい。

また、今年度国立がん研究センターがん対策研究所による「情報から始まるがん相談支援」研修～地域展開版～（以下、「情報支援研修地域版」）の講師派遣事業が終了となることもあり、次世代を育てる意味で、自県のファシリテーターを自県で担えるような取り組みにも取り組んでいきたい。

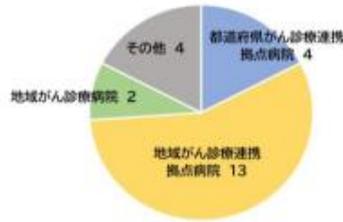
2024.11.9(土)「情報から始まる相談支援」～地域展開版～愛媛県開催 アンケート結果

参加者23名、アンケート回答者23名(回答率100%)

1. 職種

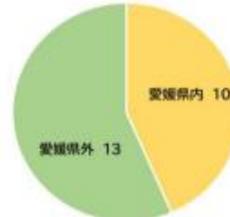


2. 所属機関の種類



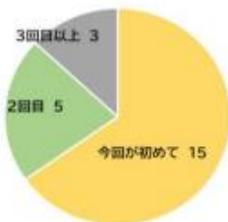
その他：がん診療連携推進病院、緩和ケアを持つ病院、高齢者療養病院、国立がん研究センター

3. 所属機関所在地

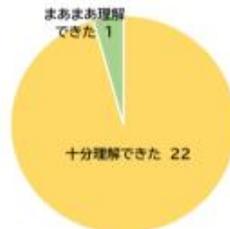


県外：東京2、大阪3、香川3、徳島3、高知2

4. 国立がん研究センター主催 情報支援研修 受講回数

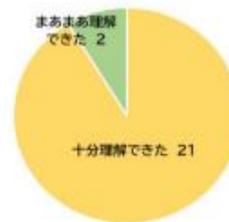


5. ヘルスリテラシーを高めることの 重要性を理解できた



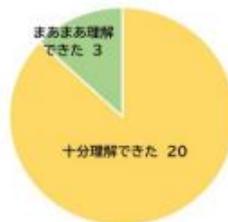
あまり理解できなかった 0
理解できなかった 0

6. 信頼できる医療情報および情報源を 見極めるための視点を理解できた



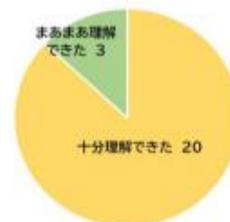
あまり理解できなかった 0
理解できなかった 0

7. がん情報サービスや患者向け ガイドラインの医療情報を理解できた



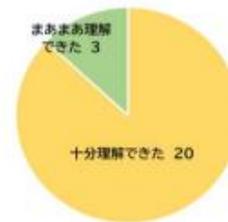
あまり理解できなかった 0
理解できなかった 0

8. 相談者に医療情報を提供する際の 留意点を理解できた



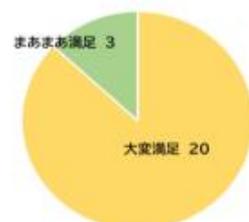
あまり理解できなかった 0
理解できなかった 0

9. 組織内において情報を収集および 整備することの重要性を理解できた



あまり理解できなかった 0
理解できなかった 0

10. 総合的な満足度



あまり満足していない 0
満足していない 0

11. 現場で実践できそうなことや取り組みたいこと

- ・根拠に基づいた情報の選択・提供
- ・ガイドラインを使用した相談、ネットで信頼できる情報の収集
- ・がん情報サービスや各種ガイドラインの活用
- ・家族に相談に来てもらえる啓発活動
- ・マニュアルの更新
- ・今自施設にある情報の整理
- ・ガイドラインの購入や整備体制の構築
- ・資料をまとめる体制作り
- ・相談者の気持ちを受け止め専門職として対応する。
- ・信頼できる情報であるか見極め、正しく情報提供を行う。
- ・正しい情報をまずは自分がきちんと把握して、患者さんへ提供できるようにしていきたい。ガイドラインやがん情報サービスを活躍したい。
- ・情報整理を継続していくこと、看護師としてMSWや心理士など相談に生かせそうな医療情報の提供をしていくのも必要かと思った。
- ・患者向けガイドラインを用いながらがん相談を実践していきたいと思った。情報整備というところでは、ほかの病院が実践していることをいろいろ聞くことができ、がん相談のマニュアル整備や、質の向上のための振り返りなどを行っていききたい。
- ・自分のヘルスリテラシーを高めるためにも、相談があってから情報を確認するのではなく、自施設にどのような情報源やツールがあるのかを確認することから始める必要があると感じた。Web上では日々情報が更新されているので、自分自身もたくさん情報に混乱しないように正しい情報を見極めるポイントについて経験を積む中で身に付けていきたいと思う。
- ・医師から伝えられていないことでも、相談者が希望したり、必要性がある場合は、信頼できる医療情報をもとに、伝えるようにしたいと思った。
- ・医学的な情報を一人の相談員としてどこまで行ってよいのか、情報があったとしても自分から伝えることに不安を抱えてしまっていた。しかし、今回の研修を通して、ガイドラインやがん情報サービスを自分の武器にして、情報提供に一步踏み出したいと思った。そう感じているのが自分だけじゃないというのも研修に参加した方の意見からも知れて、少し安心できた。
- ・相談者に情報提供する上で、相談員が理解していないと正確な情報を伝えることができないと思うので、日々学んで知識を習得していくことが大切だと感じた。
- ・インターネット情報をもとに相談される方もおられるのでそのようなときにどのような視点で確認すべきかの基準ができた。具体的に相談にのることができた。
- ・研修を通して、患者、家族の視点に立った時に、ネットに溢れる情報を正しく選択していくことの難しさを改めて学ぶことができた。正しい内容から信ぴょう性の乏しい内容まで情報が溢れていること、多様な情報に翻弄され、苦しむ患者、家族が存在することを踏まえ、根拠に基づいた情報を携えて寄り添うことができるよう努めたい。そのためにガイドライン等で知識をアップデートしていきたいと思う。
- ・正しい情報を元に、相談者のニーズに答えられる事が大事。情報が溢れているため、相談員も惑わされないように正しい情報を見極める力が必要。
- ・国が提示しているHPやガイドライン、ガイドブック等に基づき正しい情報を提供できるようにしていくことを学ぶことができた。
- ・情報をどのように支援に活かしていくかをセンター内で検討、共有していきたい。

12. 特に難しいと感じたこと、繰り返し学びたいと感じたこと

<難しいと感じたこと>

- ・インターネットの情報を信頼できるものかどうかを見極めること
- ・どの情報をどこまでの伝えるか、判断が難しい
- ・相談者が何をどこまで知りたいと思っているか、ニーズを捉えること

<繰り返し学びたいこと>

- ・情報提供に関して、他施設が取り組んでいる方法やコツ
- ・がん情報サービスやガイドラインの活用
- ・医師ではないがん相談員がどこまで情報を見極め情報提供するか
- ・相談者のニーズを捉えること
- ・信頼できる情報収集の方法や見極める視点

13. 研修の企画・運営に関して、改善に向けての意見

- ・事前から丁寧な情報提供をしていただき、安心して参加できた。
- ・スムーズな運営、進行で研修が受けやすかった。
- ・メイン・サブファシリテーターの進行で、スムーズに気楽に話し合いができた。
- ・メンバーがら人位の方がいろんな意見が出たかなと思うが、人数が少なかった分ゆっくり話できたというメリットもあった。
- ・時間通りに進み、事務局からの残り時間のお知らせや発表時の時間管理など、細かい所が行き届いていたと感じた。

14. その他、感想・意見・テーマの希望

<感想>

- ・自分自身の情報収集の傾向を知ることができた。ほかの支援者の視点を学ぶことで相談者の理解にもつながった。
- ・来週からの相談業務に活かしていきたいことをたくさん見つけることができた。
- ・職種や経験年数、病院によって考え方や取り組み方が違う事で、新しい発見が出来て勉強になった。
- ・事前講義/事前課題でも充実した内容でしたが、当日のグループワークが加わり自己学習だけでは学びきれなかったサイト情報の見極め力を深めることができた。また、ガイドラインやガイドブックの活用方法も学ぶことができた。それらを活用するためには、相談員が手にし見慣れておくことことも必要であり、それらの整備にも努めていきたいと思った。また、参加したいと思う。

<テーマの希望>

- ・福祉職の初心者がまず学ぶべきこと
- ・アセスメント・真のニーズを知る
- ・ACPに関する内容
- ・情報の研修の中に「ゲノム医療に関連した」情報についての項目があるとこれからはいいのではないかな。